

令和２年度 学校経営計画及び学校評価

１ めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。 １． 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす ２． 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす ３． 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす
--

２ 中期的目標

【次なる 50 年に向かって颯爽と】 → 平成 24 年に 50 周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。 １ 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて (1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業改善」に取り組む。 ・各教科において一層明確な「学習到達目標」を設定し、「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を作成してきた。今後、新たに作成した指導と評価の年間計画（シラバス）の中で、評価の観点の趣旨と評価方法設定を進め、観点別評価に対応できるよう努めていく。また、次期学習指導要領の改訂に向け、本校生徒に応じた新しい教育課程の検討を始める。また、平成 29 年度入学生から再構築した「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に移行するにあたり、課題の発見と解決していく資質・能力をより育成できるような学びを構築していく。 ・I C T の積極的活用の推進等を含めた「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、令和 4 年度までに、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を 80％以上にする（H29 69% H30 75% R1 79%）とともに、授業アンケートにおける満足度 3.10 以上を維持。（H29 3.12、H30 3.12 R1 3.24）（※「満足度」とは、授業アンケート「問 8 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問 9 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（４点満点）） (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。 ・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、令和 4 年度には現役生の国公立大学合格者を 10 人以上に。（H29 3 人 H30 4 人 R1 4 人） ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を令和 4 年度には 80％以上に。（H29：68%、H30：74%、R1：78%） ・「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」でキャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施するとともに、課題解決できる力を育成する。 ・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、読書指導や文章を書く力を育成する。 ２ 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。 ・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 90％以上を達成し、維持していく。 ・部活動加入率について、令和 4 年度度には 80％を達成するとともに、一層の増加をめざす（H29 73% H30 74 % R1 74%） (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。 ・遅刻者数について、年間 1,000 未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続していく。（H29：644 人、H30：638 人、R1：882 人） ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、携帯電話使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。 ３ 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて (1) グローバルな人材を育成するため、英語の 4 技能を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。 ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」等に積極的に参加する。 ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施し、卒業時には、全員が英検 2 級レベル以上に合格するとともに、第 2 外国語選択者について各外国語の初級検定以上に合格することをめざす。 (2) 国際文化科への改編に向けて、教育内容の検証と、新たな取組みの検討・準備・試行を行う。併せて、ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させ、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、SDG s の課題なども含めて世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動できる人間を育成する。 ・令和 3 年度国際文化科への改編に向けて、教育課程等の整備、教育内容の検討・準備・試行、総合的な探究の時間の充実を行っていく。 ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう、推進していく。 ４ 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備 (1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。 ・渉外・広報に関する校内組織を一層強化。本校の魅力や入学者選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校 H P の計画的な更新等を進めていく。 (2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。 ・学校として短焦点プロジェクターやタブレット P C の活用を推進するとともに、次世代のスタンダードとなる教育施設・設備を導入できるよう つとめる。 ・ペーパーレス環境の一層の推進に向けて、校内における連絡体制や各会議のあり方等を見直していく。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 2 年 12 月実施〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 指導と評価の一体化の導入を進め、観点別評価を試行する。国際文化科教育課程の一部先行実施及び試行。新教育課程（R4～）の策定。 イ 授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組む。 ウ 教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICT 機器の活用やグループ学習などの研究・研修に努めて、主体的・対話的で深い学びを推進し、魅力的で「わかりたくなる授業」をめざす。	ア 観点別評価の試行、国際文化科教育課程の一部先行実施。新学習指導要領の改訂に基づく教育課程（R4～）の策定。 イ 授業アンケートにおける「満足度」の維持（R1 年 12 月実績 3.24） ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を 80％以上に（R1 年 79.3％）	
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 家庭学習を含め、今後における学習指導のあり方について、授業力向上 P T を中心として検討・実践を進めていく。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を積極的に活用する。特に節目となる時期の模試については、校内で全員を対象として実施する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。学習到達目標に合わせた学習指導と進路指導を共有化する。（教科スタンダードの活用） ウ 生徒の日々の学習や活動の記録を蓄積し、教育効果の検証や新たな調査書に対応できるよう準備する。 エ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒の支援体制を充実。S C、関係外部機関との連携、いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談の充実を行う。 オ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」として再構築し、課題を見つけ探究し、解決する能力を育成する。	アイ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均 60 分以上に（H31 年 1・2 年平均平日 44.5 分、休日 70.5 分）また、同調査における「B 2 ゾーン」以上の生徒割合を 2 年生（2 回目）で 43％以上に（R1 年 41.2.％）。以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大 4 人以上かつ関関同立 40 人以上の合格をめざす（R1 年度 4 人、40 人：9ｸﾗｽ） エ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を 80％以上に（R1 年 78.7％） 「いじめについて真剣に対応」の肯定率維持（R1 年 86.0％） 自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」の肯定率維持（R1 年 89.3％） オ自己診断「将来の進路や生き方について学び機会がある」、「人権について学ぶ機会がある」の肯定率の向上（R1 年進路：93.2％、人権 94.0％）	
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」や新たな部活動の指針を策定し、クラブの活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭・体育祭を、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる。 ・あいさつ運動、ボランティア活動、ユネスコ・スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築。	ア 部活動加入率を 3 ポイント以上増（R1 年 74.7％） 自己診断「学校に行くのが楽しい」肯定率 85％以上維持（R1・85.2％） 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 85％以上維持（R1 年 88.5％）	
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実。規則の再確認。 ・遅刻指導、服装指導、頭髮指導の継続 ・交通安全指導、薬物乱用防止教育の充実 ・SNS の正しい理解、携帯電話の使い方指導	ア 年間総遅刻者数 1,000 人未満維持（R1 年度 882 人） 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上（R1 年 生徒 74.5％、保護者 86.6％）	
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 英語 4 技能の育成と「使える英語力」の伸長	ア 英語力 4 技能の育成を進めるため、指導法の工夫を行うとともに、英検等英語外部検定について、1・2 年全員の積極的な受験を行う。 イ 国際教養科の改編に向けて、教育課程に基づく教育内容の検討、決定及び取組みの準備を進める。	ア・イ 英検等、外部検定について、卒業時まで英検 2 級相当以上を取得することをめざす。 イ 国際教養科から国際文化科へ、継続性・発展性を持った円滑な取組みの移行を行う。	
	(2) 国際文化科・ユネスコ・スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	ア 海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、学校交流の推進。旅費の効率的な執行。 イ ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア 事後のアンケート結果等を分析し、肯定率 95％以上を維持。（修学旅行アンケート：全体評価 R1 年・96.4％） イウ 大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率 90％を維持（R1 年 92.4％）・	
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア 広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。Web ページの充実を行う。 イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ 「枚高メルマガ」「ブログ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア・イ 志願者の確保（R2 年度選抜の志願倍率 1.12 倍） 学校説明会の参加者数 1,200 人以上を維持（R1 年は 1,219 人） ウ 自己診断「枚高メルマガは役立っている」65％以上（R1 年 64.6％）	
	(2) 教育環境のさらなる改善・充実	ア I C T 機器の充実、授業での活用の研究工夫。 イ 会議室でのプロジェクター活用、校内イントラネット、統合 ICT の活用等により、会議資料や生徒出欠簿のペーパーレス化を一層推進。会議全般の効率化により時間短縮を図る。	ア I C T 機器の活用による授業改善を行う。教員の活用率の 90％以上維持（自己診断「教員の ICT 活用」90.2％） イ 会議のペーパーレス化や出欠簿の完全統合 ICT 化を進めるとともに、各会議 1 時間以内をめざす。	